

教授 舟橋 三十子

教育上の能力に関する事項	年 月 日	0概 要
◎教育方法の実践例 ソルフエージュ I		<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な聴音、新曲だけでなく、分析、理論、移調、リズム、音程練習等を加えてアプローチしている。また、様々な時代や作曲家、国の名曲をテキストに用い、幅広い視点から音楽をとらえ、学生が何のためにソルフエージュを学ぶのか、その目的をはっきりさせて、授業を学ぶモチベーションを高めるようにしている。 ・ソルフエージュ I では、主としてリズム練習に重点を置いている。(単純拍子、複合拍子、混合拍子、変拍子、単リズムと歌、2声のリズム等)

<p>ソルフェージュ II</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な聴音、新曲だけでなく、分析、理論、移調、リズム、音程練習等を加えてアプローチしている。また、様々な時代や作曲家、国の名曲をテキストに用い、幅広い視点から音楽をとらえ、学生が何のためにソルフェージュを学ぶのか、その目的をはっきりさせて、授業を学ぶモチベーションを高めるようにしている。 ・ソルフェージュIIでは、主として音程・視唱練習を重点を置いている。(伴奏付き基礎音程、多声部視唱、クレの読みかえ等)
<p>ソルフェージュ特論</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・フランスの教本（フォルマシオン・ミュージカル）の日本語版（拙訳）を用い、新しい考え方に基づいた方法を実施している。また教材として用いた作品のCD、DVDを使用し、譜面からだけでなく、視覚的・聴覚的な要素も視野にいれた方法での楽曲へのアプローチを試みるようにしている。 ・特に、本学の姉妹校であるエコール・ノルマルのソルフェージュの課題を中心に、授業を行っている。
<p>楽式論（楽曲分析を含む）</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・動機、二部形式、三部形式、ロンド形式、ソナタ形式、ロンド・ソナタ形式、変奏曲、カノン、フーガ等の基本的な楽式の説明を行っている。 ・よく知られたピアノ作品から始まり、最終的には、古典派、ロマン派、近代の作品までのアナリゼを実施している。予習に重点を置き、自分の力で分析できるようにさせている。過去に学んだ和声学の知識を生かし、最終的には、ポリフォニックな音楽にも踏み込んでアナリゼできるようにしている。
<p>キーボード・ハーモニー</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・コードネームや和音記号を用いた伴奏付けや、旋律に合った対旋律（オブリガート）を付けるなど、音楽の教師を目指すに当たって、教育の現場で実際に役に立つ学習を行っている。よく知られた旋律に正しいハーモニーを付けるなど、和声学で学んだ机上の学問を実践で役立たせるように工夫している。 ・古今東西の名曲を教材として使用することは、深い音楽の知識を必要とされる音楽教育の面からも欠くべからざることなので、幅広いジャンルの曲を聞かせるように努めている。
<p>(大学院) 楽曲分析研究-1 (古典・ロマン派作品)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学部で学んだ機能と和声について復習するとともに、楽式論や楽曲分析についても、再度復習しながら授業をすすめる。特に借用和音、準固有和音、非和声音、終止、転調等については、机上の和声の知識と実際の楽曲とは異なることが多いため、その点を留意しながら分析を行う。また西洋音楽の歴史的背景を理解した上で、広いジャンルの曲を楽曲分析の対象とする。

<p>◎作成した教科書・教材 クラシックのからくりー「かたち」で読み解く楽曲の仕組みー</p>	<p>2016. 4 (ヤマハミュージックメディア)</p>	<p>「クラシック音楽は難しい?」「ロンド、カノン、二部形式、ってなに?」という音楽愛好家を持つ疑問を、具体的に説明している。楽曲の「かたち」から音楽の構成を徹底分析する、聴くだけではなく楽しみ方ができる一冊として書いた。各形式の代表的な曲を楽譜でまるごと解説するので、曲の構成図が一目でわかる。また、構造や仕組みを知れば、感動の仕組みまで理解できる。楽曲の「かたち」から音楽の構成を徹底分析する、画期的な一冊といえる。</p>
<p>1冊でわかるポケット教養シリーズ 形式から理解するクラシック</p>	<p>2016. 10 (ヤマハミュージックメディア)</p>	<p>名曲のスタイルを分析し、曲の背景を知って、音楽をもっと楽しく聴こう、というコンセプトのもとに書いた。誰もが知っている名曲80曲を使い、クラシックを「仕組み(音楽形式)」と「構成」からわかりやすく分析している。何気なく聴いていて聞き過ぎていた、クラシック音楽の魅力や秘密が見つかるかもしれない、という今までにない視点からのクラシック音楽へのアプローチである。</p>
<p>フォルマシオン・ミュージカル名曲で学ぶ音大入試の楽典</p>	<p>2017. 3 (音楽之友社)</p>	<p>近年、音楽大学・音楽高校の入試で多く出題される、実際の曲を用いた楽典問題に対応する問題集である。各章の構成は次のとおり。例題（入試過去問題）→例題に関する楽典の解説→著者作成の応用問題（書き込み式）。巻末に例題と応用問題の解答付き。例題には、東京藝術大学、国立音楽大学、愛知県立芸術大学ほか延べ12校の入試問題を掲載。主要な音楽大学をはじめ、東京藝術大学附属音楽高等学校の問題も含まれている。</p>
<p>◎当該教員の教育上の能力に関する大学の評価 ソルフェージュ I ソルフェージュ II</p>		<p>学生に対して行っている授業の内容が、彼らの専攻実技に役立っていると思われる。学生の知識や学習レベルが一律でないため、どうしても能力の差が授業の進行に影響を与えてしまうので、これが今後の検討課題である。</p> <p>ソルフェージュ Iでは、主としてリズム練習に重点を置いて授業を進めている。「拍子を正確に取ること」はソルフェージュの基本であるので、クラス授業の特性を活かして、様々な方法でアプローチすることで、効果的に進めることができると考えられる。</p> <p>ソルフェージュ IIでは、主として視唱・音程練習に重点を置いて授業を進めている。「音程を正確に取ること」はソルフェージュの基本であるので、クラス授業の特性を活かして、様々な方法でアプローチすることで、効果的に進めることができていると考えられる。</p> <p>できるだけレベルの低い学生に授業内容を合わせたいと思っているが、実技のレッスン等で遅刻してくる学生、出席が足りない学生等が多々おり、彼らの不足点に関しては、課題を与えるなど工夫し、フォローしていきたいと考えている。</p>

<p>ソルフェージュ特論</p> <p>楽式論（楽曲分析を含む）</p> <p>キーボード・ハーモニー</p> <p>（大学院） 楽曲分析研究-1（古典・ロマン派作品）</p>		<p>幅広いジャンルの楽曲の読解力を深めるために、ソルフェージュ能力だけでなく、基礎となるエクリチュール、作曲、楽曲分析能力などを磨くことも目的としている。特にソルフェージュの先進国であるフランスの新しいソルフェージュと言われるフォルマシオン・ミュージカルの考えに基づいた授業を展開していくので、学生の音楽の表現能力は総合的に向上し、広義の音楽の知識も身につくと考えられる。</p> <p>楽式論では、実際の楽曲を数多く聴くことを念頭に、DVDで音と映像を再現することを重点に授業を実施している。そのため、彼らの専攻実技とは関係ない楽曲に触れる機会が多く、学生にとっては新しい体験だったように思われる。</p> <p>実際に演奏するだけでなく、学生が学習している楽曲の成り立ちを知ることは、曲を理論的に理解し、現在学習している和声学や対位法との関連性も視野に入れた、多角的な学習方法として評価できる点だと思われる。今後もこの方針で授業に取り組みたいと思う。</p> <p>4年生の総まとめとしてのこの科目は、学生が教育実習に出たときに「大変役立つ」と好評である。コードネームや和声付けは、卒業してからも必ず必要とされる技能であり、この授業では、よく知られている短い楽曲に伴奏を付けることを主眼として授業を進めている。特に、即興性を磨くため、教室に設置されたミュージックラボの設備を利用して、オブリガートの創作や即興的な伴奏付けをするなど、机上の空論ではない授業を今後も展開し、なおかつ扱う楽曲も広げていきたいと考えている。</p> <p>古典から近代、現代までの代表的な楽曲の様式研究と、その楽曲分析を行うので、和声の見地から作品を分析し、これらの作曲家の音楽様式を理解できるようになる。実際の楽曲で使われている和声や形式の分析を、自分でアナリーゼする力を養うと同時に、演奏での理解力が身についたと考えられる。</p>
<p>◎その他 平成28年度 科学研究費助成事業 審査委員表彰者</p>	<p>2106. 9. 30 (独立行政法人日本学術振興会)</p>	<p>学術システム研究センターにて、科学研究費審査終了後、審査の検証を行い、その結果を翌年度の審査委員の選考に適切に反映している。さらに、その検証結果に基づき、第2段審査（合議審査）に有意義な審査意見を付した第1段審査（書面審査）委員を選考し表彰することとしており、平成28年度は約5,700名の第1段審査（書面審査）委員の中から268名が選考され、その1人に選ばれた。</p>
<p>職務上の実績に関する事項</p> <p>平成27年度 科学研究費助成事業 第1段審査（書面審査）委員</p>	<p>年 月 日</p> <p>2015. 1 (独立行政法人日本学術振興会、科学研究費助成事業)</p>	<p>概 要</p> <p>独立行政法人日本学術振興会、科学研究費助成事業（科研費）の第1段審査委員（書面審査）を務めた。（分科：芸術学、細目名：芸術一般） ※1年間は非公開のため、本年度に掲載した。</p>

<p>公開講座「お仕事帰りに聴く名曲クラシック～『ロマン派の作品を巡って』」第1回</p>	<p>2016. 4. 14 (朝日カルチャーセンター名古屋)</p>	<p>拙著「クラシックの聴き方入門—名曲のスタイル分析 全80曲—」(ヤマハミュージックメディア刊)をテキストに用いて、ベートーヴェンとシューベルトを中心に、その生涯や作品を対比させ、パワーポイントで映像や音源を用いてレクチャーした。歌曲王と呼ばれたシューベルトの作品の分析と、シューベルトが敬愛していたベートーヴェンの作品を比較し、譜例を用いてわかりやすく構成した。</p>
<p>公開講座「お仕事帰りに聴く名曲クラシック～『ロマン派の作品を巡って』」第2回</p>	<p>2016. 5. 12 (朝日カルチャーセンター名古屋)</p>	<p>拙著「クラシックの聴き方入門—名曲のスタイル分析 全80曲—」(ヤマハミュージックメディア刊)をテキストに用いて、ショパンとシューマンを中心に、その生涯や作品を対比させ、パワーポイントで映像や音源を用いてレクチャーした。この2人の作曲家が同じ年に生まれたことはあまり知られていないが、ピアノの詩人と言われたショパンと、文学者としての才能も持ち合わせたシューマンそれぞれの作品を、譜例を用いてわかりやすく構成した。</p>
<p>公開講座「お仕事帰りに聴く名曲クラシック～『ロマン派の作品を巡って』」第3回</p>	<p>2016. 6. 9 (朝日カルチャーセンター名古屋)</p>	<p>拙著「クラシックの聴き方入門—名曲のスタイル分析 全80曲—」(ヤマハミュージックメディア刊)をテキストに用いて、リストとワーグナーを中心に、その生涯や作品を対比させ、パワーポイントで映像や音源を用いてレクチャーした。交響詩を生み出したリストと、楽劇やライトモチーフ等で後世の音楽史に功績を残したワーグナーを比較し、親戚関係にあったというエピソードも交えて、譜例を用いてわかりやすく構成した。</p>
<p>公開講座「お仕事帰りに聴く名曲クラシック～『古典派の作品を巡って』」第1回</p>	<p>2016. 7. 14 (朝日カルチャーセンター名古屋)</p>	<p>拙著「クラシックのからくり」(ヤマハミュージックメディア刊)をテキストに用いて、ハイドンを中心に、その生涯や作品を対比させ、パワーポイントで映像や音源を用いてレクチャーした。音楽家の地位が低かったため、教会や宮廷貴族の援助なしでは生活が成り立たなかった当時の状況を、世界史を交えてわかりやすく構成した。</p>
<p>公開講座「お仕事帰りに聴く名曲クラシック～『古典派の作品を巡って』」第2回</p>	<p>2016. 9. 8 (朝日カルチャーセンター名古屋)</p>	<p>拙著「クラシックのからくり」(ヤマハミュージックメディア刊)をテキストに用いて、モーツァルトを中心に、その生涯や作品を対比させ、パワーポイントで映像や音源を用いてレクチャーした。音楽史上最も知られているであろうモーツァルトの作品を、ステージパパと言われた家族間でのエピソードや、短い生涯であったにもかかわらず、幅広いジャンルの作品を多数残したことなどを、譜例を用いてわかりやすく構成した。</p>
<p>公開講座「お仕事帰りに聴く名曲クラシック～『古典派の作品を巡って』」第3回</p>	<p>2016. 9. 29 (朝日カルチャーセンター名古屋)</p>	<p>拙著「クラシックのからくり」(ヤマハミュージックメディア刊)をテキストに用いて、ベートーヴェンを中心に、その生涯や作品を対比させ、パワーポイントで映像や音源を用いてレクチャーした。楽聖と呼ばれたベートーヴェンの作品として、交響曲をはじめ、よく知られたピアノ曲、また自作の主題を使い回した作品例などを、具体的に譜例で示すことにより、難解なクラシック音楽を楽しむことができるように構成した。</p>

<p>ローランド・ピアノ・ミュージックフェスティバル 2016 北陸本選 小学生部門、中学生・一般部門の審査員</p>	<p>2016. 12. 3~12. 4 (金沢市アートホール)</p>	<p>事前のメディア (CD-R) 審査の予選に合格した参加者の北陸本選 (小学生部門、中学生・一般部門) のステージ演奏を審査し、講評した。 出場者は、指定課題曲より1曲を選択する。SMF (Standard MIDI File) ミュージックデータとのアンサンブル演奏、またはピアノソロ演奏による、クラシックからポピュラーの楽曲まで、幅広いジャンルの作品の演奏を審査した。</p>
---	--	--

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
<p>◎著書 クラシックのからくりー「かたち」で読み解く楽曲の仕組みー</p>	<p>単著</p>	<p>2016. 4</p>	<p>ヤマハミュージックメディア (176ページ)</p>	<p>「クラシック音楽は難しい?」「ロンド、カノン、二部形式、ってなに?」という音楽愛好家が持つ疑問を、具体的に説明している。楽曲の「かたち」から音楽の構成を徹底分析する、聴くだけではない楽しみ方ができる一冊として書いた。 各形式の代表的な曲を楽譜でまるごと解説するので、曲の構図が一目でわかる。また、構造や仕組みを知れば、感動の仕組みまで理解できる。楽曲の「かたち」から音楽の構成を徹底分析する、画期的な一冊といえる。</p>
<p>1冊でわかるポケット教養シリーズ 形式から理解するクラシック</p>	<p>単著</p>	<p>2016. 10</p>	<p>ヤマハミュージックメディア (264ページ)</p>	<p>名曲のスタイルを分析し、曲の背景を知って、音楽をもっと楽しく聴こう、というコンセプトのもとに書いた。 誰もが知っている名曲80曲を使い、クラシックを「仕組み (音楽形式)」と「構成」からわかりやすく分析している。 何気なく聴いていて聞き過ぎていた、クラシック音楽の魅力や秘密が見つかるかもしれない、という今までにない視点からのクラシック音楽へのアプローチである。</p>
<p>フォルマシオン・ミュージカル 名曲で学ぶ音大入試の楽典</p>	<p>単著</p>	<p>2017. 3</p>	<p>音楽之友社 (117ページ)</p>	<p>近年、音楽大学・音楽高校の入試で多く出題される、実際の曲を用いた楽典問題に対応する問題集である。各章の構成は次のとおり。 例題 (入試過去問題) → 例題に関する楽典の解説 → 著者作成の応用問題 (書き込み式)。巻末に例題と応用問題の解答付き。例題には、東京藝術大学、国立音楽大学、愛知県立芸術大学ほか延べ12校の入試問題を掲載。主要な音楽大学をはじめ、東京藝術大学附属音楽高等学校の問題も含まれている。</p>

<p>◎その他 WEB連載「みとこ先生の音大入試の楽典ガイド—名曲で学ぶ音楽の基礎—」連載第12回</p>	<p>単著</p>	<p>2016. 4</p>	<p>音楽之友社ホームページ</p>	<p>複数の音楽大学の2015年度入試問題から、近親調・転調、反復記号・省略記号などのテーマを取り上げ、解説した。それらを踏まえ、応用問題として、主として近親調と反復記号の問題、および解答を掲載した。 音楽大学・音楽高校の受験生のみならず、入学後の楽典や音楽理論等の授業でも使用できるように書いた。</p>
<p>誰でも知っている《エリーゼのために》の“からくり”</p>	<p>単著</p>	<p>2017. 2</p>	<p>雑誌「ムジカノーヴァ」(第48巻第2号)</p>	<p>ベートーヴェン作曲のピアノ曲「エリーゼのために」を楽曲分析した。曲の生まれた歴史的背景や、ロンド形式（大ロンド・小ロンド）、ヘミオラ、保続音、終止、減七の和音などの作曲技法も解説した。これらの作曲のテクニックを用いた他の楽曲も、譜例付きで説明した。また、この曲をカバーした、いくつかのポピュラー音楽も紹介した。</p>